

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人五井節蔵の上告趣意第一点及び第二点について。

論旨は憲法一一條、一四條の違反を主張するけれども、その実質は単なる訴訟法違反の主張に過ぎない（しかも訴訟法上も原判決の見解は正当であつて所論のような違法はない）から、適法な上告理由とならない。

同第三点について。

論旨は憲法一八條違反の語を用いているけれども、その実質は結局量刑不当の主張に歸し適法な上告理由とならない。

被告人提出の上告申立書に記載の主張も刑訴四〇五條の上告理由にあたらない。

なお記録を調べてみても刑訴四一一條を適用すべき事由は認められない。

よつて同四一四條、三八六條一項三号により主文のとおり決定する。

この決定は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二八年六月三〇日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	井	上	登
裁判官	島		保
裁判官	河	村	又 介
裁判官	小	林	俊 三
裁判官	本	村	善 太 郎